

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年11月調査結果 -



2009年11月30日

業況DIは、低水準の横ばい状態で推移し、停滞感が強まる

<結果のポイント>

11月の全産業合計の業況DIは 60.0と、前月に比べ+0.6ポイントと、前月とほぼ同水準で推移した。業況は、一部に持ち直しの動きがみられるが、全体としては緩慢で、低水準の横ばい状態のまま停滞感が強まっている。経済対策の効果などから、環境対応車や薄型テレビの販売は持ち直しているが、雇用・所得情勢の悪化による個人消費の減退や販売単価の低下、競争激化による低価格受注などにより売上の減少が続いており、企業の収益状況はさらに厳しさを増している。

業種別では、建設業、製造業でマイナス幅が縮小した。製造業については、エコポイント制度、環境対応車の購入助成の効果のほか、広範囲に生産水準の下げ止まり感が出てきた。建設業のマイナス幅の縮小は、比較対象となる昨年11月の業況DIが 70.0と、極めて低い水準であったことが影響しており、実態は横ばい状態とみられる。一方、卸売業、小売業、サービス業ではマイナス幅が拡大した。個人消費の減退による売上不振や販売価格の下落による採算の悪化など、昨年来続いている大幅な需要不足が影響している。

売上DI、採算DIについては、長期需要不足が深刻化している小売業、サービス業を中心にマイナス幅が拡大した。仕入単価DIについては、大幅な需要の落ち込みと川下の値下げ圧力の高まりにより、マイナス幅は縮小した。資金繰りDI、従業員DIについては低水準で推移した。

先行きについては、50.9と、前月に比べ1.0ポイントと、マイナス幅が拡大した。3カ月連続のマイナス幅の拡大で、先行きに対する不安が広がっている。ボーナスや給与の減額、雇用不安に伴う個人消費、住宅建設の減退、企業収益の落ち込みによる設備投資の減少、公共工事の前倒し発注に伴う年度後半の工事量減少など、先行きの不透明感や二番底を懸念する声がかかり強い。また、売上見通しがたたず、年末・年度末の資金繰りに不安を持つ中小企業が増えている。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年11月16日～20日

調査対象 全国の407商工会議所が2623業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業：385 製造業：618 卸売業：237 小売業：741 サービス業：642

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等
DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

< 産業別の特徴的な動き >

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、60.0と、前月に比べると+0.6ポイントと、前月に続きほぼ横ばいで推移した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、製造業で縮小し、他の3業種で拡大した。

売上減少企業の割合が再び増加したほか、雇用維持のため、労働時間や給与等を調整している企業は引き続き6割を超えた。雇用調整助成金によって、何とか雇用を維持している企業が多く、助成金の受給要件の緩和を求める声が強くなっている。

また、中小企業向け融資の返済猶予制度を盛り込んだ、「中小企業金融円滑化法案」の利用を希望する企業が13%に上るなど、資金繰り不安は増している。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ 好転 ↓ 悪化

【建設業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↓	↑	↑	↑	↑

- ・「工事の執行が秋に集中し受注が増加。一時的に人と機械等のやりくりで苦労している」(一般工事業)
- ・「工事量の減少等により、技術者は残すが、重機は処分し、作業員は解雇せざるを得ない」(一般工事業)
- ・「民間・公共工事ともに仕事がなく、来年度の見通しがたたない」(土木工事業)

【製造業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↔	↑	↑	↑

- ・「仕事は確保しているものの収益性が低いものが多い」(農業用機械製造業)
- ・「従業員を遊ばせないため、赤字覚悟で受注している。中小企業金融円滑化法案については、一時的に返済猶予されても、その後の経営が不安」(金属加工機械製造業)
- ・「仕入単価の低下や、受注の底打ち感はあるが、生産水準は低いままで苦戦」(他の輸送用機械製造業)

【卸売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↑	↑	↑	↑

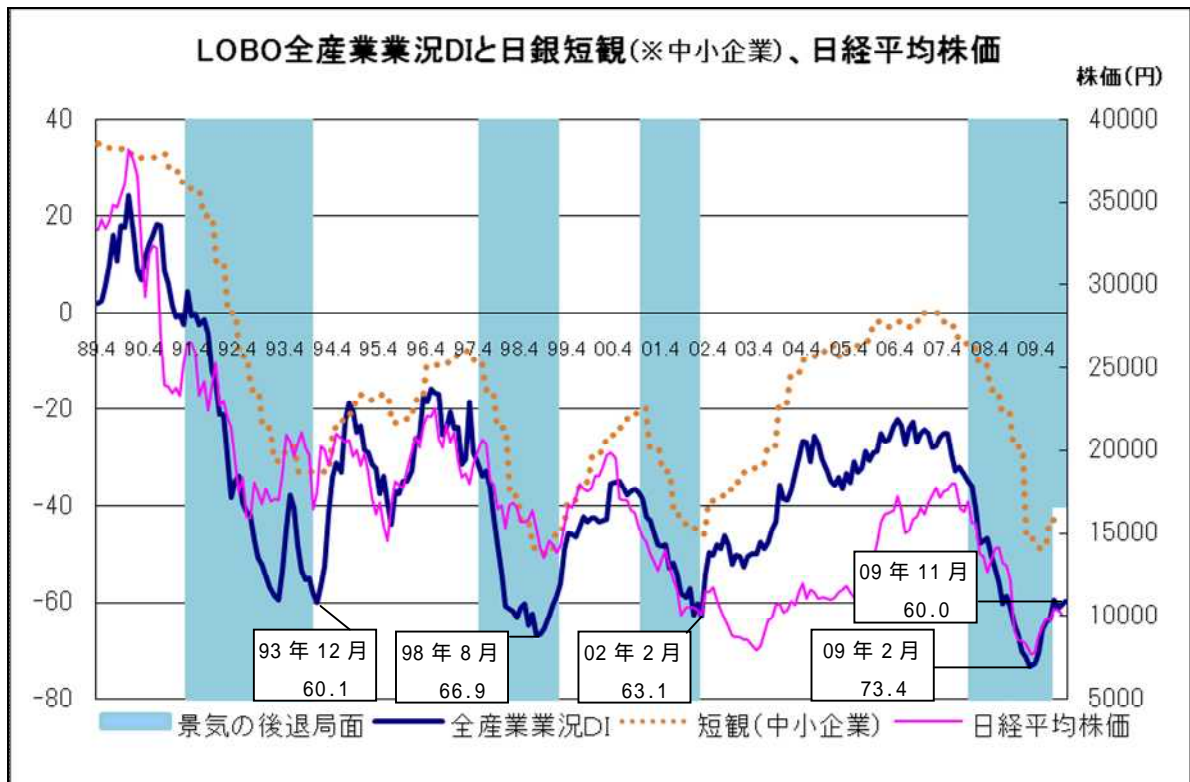
- ・「野菜類が豊作のため昨年より仕入れ単価が安くなった」(農畜産水産物卸売業)
- ・「仕入価格は小幅ながら上昇。一方、販売価格は下落し、採算が悪化している」(化学製品卸売業)
- ・「取引先の大型量販店はインターネット販売が好調で、納入数量は増加しているが、取引条件は厳しさを増している」(各種商品卸売業)

【小売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	↓	↑	↓

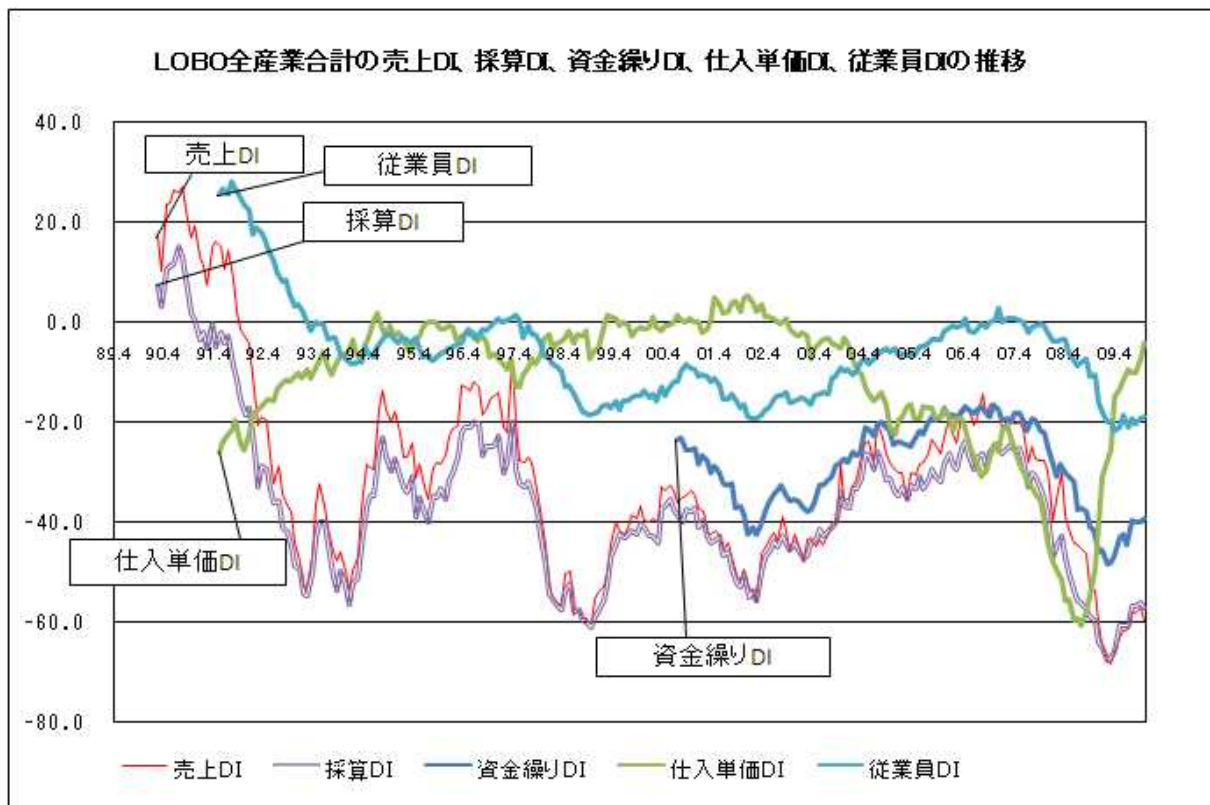
- ・「近隣のスーパーやディスカウント店が撤退し、来客数が増加。食品の売上が増えた」(百貨店)
- ・「エコポイント制度の効果により、テレビの売上が好調。制度延長による今後の売上増を期待している」(商店街)
- ・「取扱商品が安価であるため、販売数量は確保したが売上高は減少」(その他小売業)

【サービス業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	↓	↑	↓

- ・「忘年会の予約が少なく先行きを懸念している」(食堂・レストラン)
- ・「円高傾向が続き、外国人客の減少や土産物販売の低下につながるのではないかと懸念している」(旅館)
- ・「低料金の店舗に客足が流れ、客数減少に歯止めがかからず先行き不安が強くなっている」(理容業)



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、60.0となり、前月に比べると+0.6ポイントと、ほぼ横ばいで推移した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、製造業で縮小し、他の3業種で拡大した。建設業のマイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」に変更したため、実態は横ばい状態とみられる。

向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が50.9と前月と比べ1.0ポイントと、3カ月連続でマイナス幅が拡大した。昨年同時期の先行き見通し（60.6）に比べると10ポイント程マイナス幅が縮小している。

産業別に前月比で先行き見通しを比較した場合、建設業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。昨年同時期と比べると、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

業況DI(前年同月比)の推移

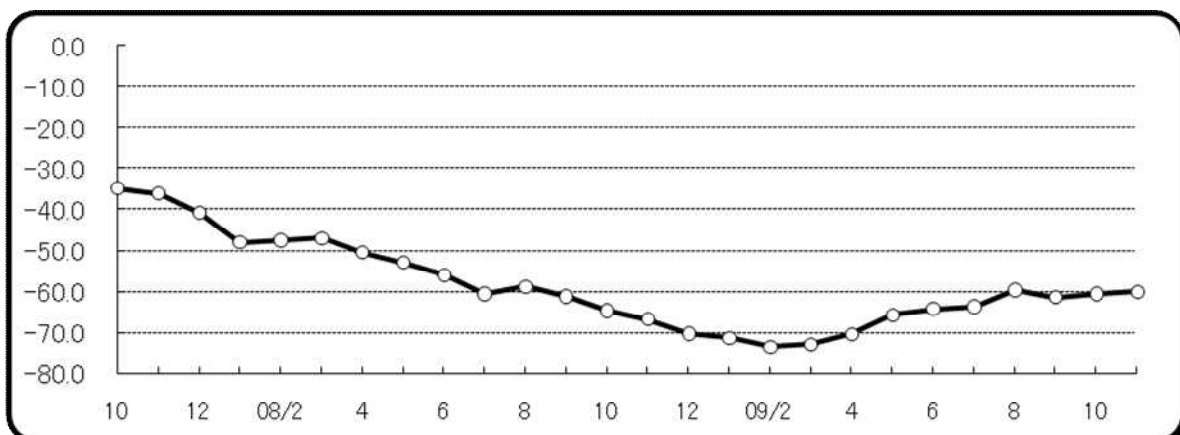
	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全産業	64.2	63.6	59.6	61.4	60.6	60.0	50.9 (49.9 / 60.6)
建設	66.7	61.2	56.3	57.5	64.1	55.5	58.9 (57.7 / 68.6)
製造	70.6	65.7	62.9	67.0	62.4	60.2	43.5 (46.3 / 62.4)
卸売	61.8	65.5	61.1	56.8	65.4	67.7	47.0 (51.1 / 54.9)
小売	63.4	65.1	60.7	64.0	62.9	64.3	56.6 (52.7 / 60.9)
サービス	57.3	60.3	56.3	56.9	51.8	54.8	48.5 (44.9 / 55.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月10月の先行き見通しDI

()内右側は昨年11月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、59.8となり、前月に比べると2.6ポイントと、マイナス幅が拡大した。産業別にみると、建設業、卸売業、小売業、サービス業でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が45.5と前月に比べ1.3と、マイナス幅が拡大した。昨年同時期の先行き見通し(51.7)に比べると6ポイント程マイナス幅が縮小している。

産業別に前月比で先行き見通しを比較した場合、建設業、製造業、小売業でマイナス幅が拡大した。昨年同時期と比べると、小売業を除く、他の4業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

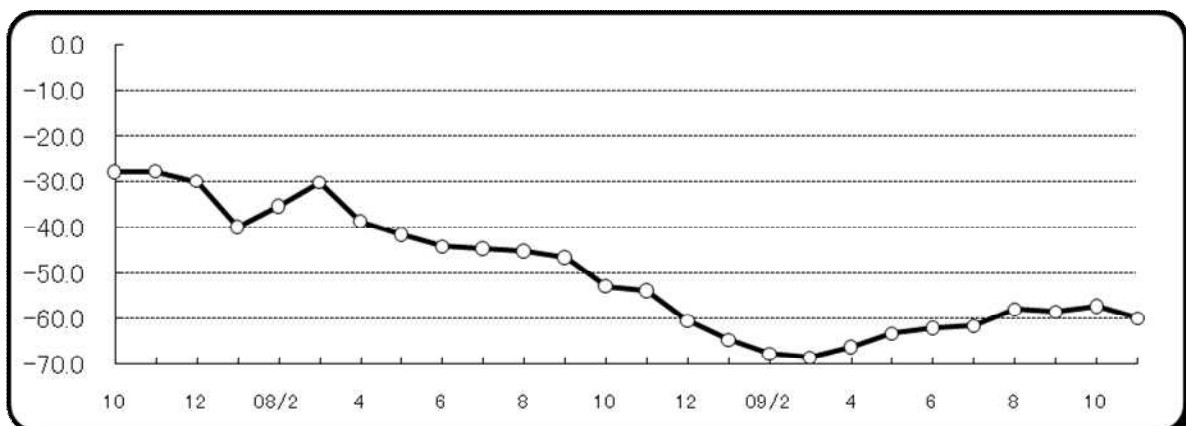
	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全産業	62.0	61.6	57.9	58.4	57.2	59.8	45.5 (44.2 / 51.7)
建設	60.3	54.2	52.0	52.2	52.6	54.5	58.4 (52.3 / 65.4)
製造	65.9	65.0	62.6	66.1	62.0	58.8	40.0 (35.6 / 54.7)
卸売	61.1	60.0	56.9	54.7	61.9	67.2	31.3 (35.8 / 39.4)
小売	64.6	66.7	61.4	60.6	60.7	66.0	52.4 (52.3 / 48.8)
サービス	56.2	57.3	52.7	53.4	49.0	54.2	40.6 (42.3 / 47.9)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月10月の先行き見通しD I

()内右側は昨年11月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、57.3となり、前月に比べると0.9ポイントと、マイナス幅が拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、小売業、サービス業で拡大した。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月ベース)が46.1と前月と比べ0.2と、ほぼ横ばいで推移した。昨年同時期の先行き見通し(53.2)に比べると7ポイント程マイナス幅が縮小している。

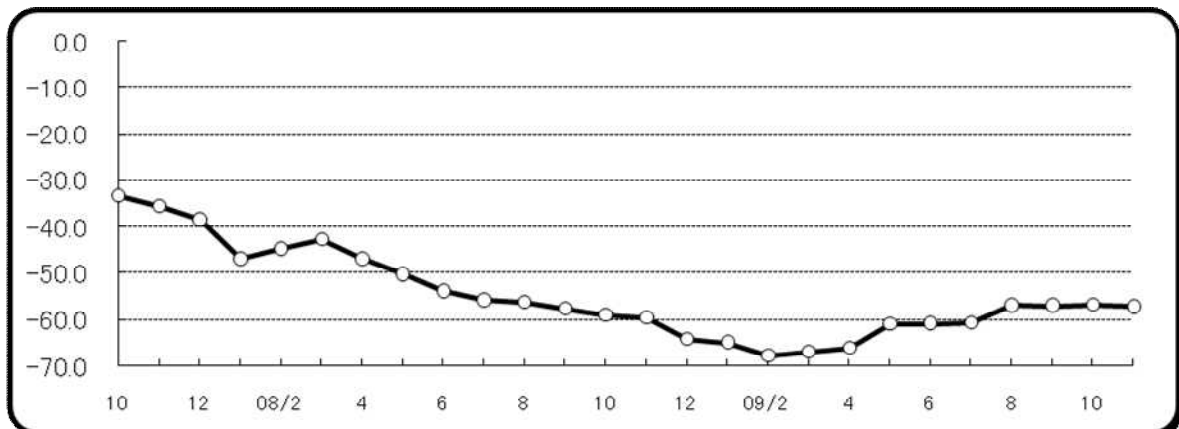
産業別に前月比で先行き見通しを比較した場合、建設業、製造業、小売業でマイナス幅が拡大した。昨年同時期と比べると、すべての業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月
全産業	60.9	60.8	57.0	57.1	56.4	57.3	46.1 (45.9 / 53.2)
建設	67.1	61.1	56.8	58.1	55.9	54.5	54.5 (50.3 / 64.5)
製造	68.3	65.8	61.8	65.4	57.0	57.0	43.6 (42.9 / 56.9)
卸売	56.3	56.4	54.2	50.0	60.4	59.7	32.8 (40.3 / 42.3)
小売	58.4	62.0	57.7	57.3	60.3	62.4	50.3 (48.0 / 50.7)
サービス	53.3	55.9	52.4	50.3	50.0	52.4	43.9 (46.2 / 49.3)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
 ()内左側(網かけ)は前月10月の先行き見通しD I
 ()内右側は昨年11月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全産業	42.7	44.7	39.9	40.1	40.2	39.3	35.5 (37.5 / 41.6)
建設	50.9	47.9	43.6	47.5	50.5	46.0	46.2 (44.8 / 53.9)
製造	56.6	53.3	48.7	48.3	47.8	44.1	37.8 (40.8 / 48.0)
卸売	35.1	38.2	38.0	35.0	35.0	34.1	28.8 (37.9 / 35.6)
小売	32.9	38.0	35.9	35.4	35.1	36.3	30.7 (33.6 / 32.6)
サービス	35.9	43.5	33.4	34.2	33.9	35.4	34.4 (33.7 / 39.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、39.3となりマイナス幅は縮小した。産業別にみると、建設、製造、卸売の3業種でマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計はマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみると、すべての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全産業	11.6	9.5	10.5	10.3	7.6	4.4	7.7 (9.4 / 33.3)
建設	18.5	15.9	16.8	15.5	18.1	14.1	15.0 (15.0 / 38.6)
製造	10.1	9.1	6.1	8.4	7.6	2.4	10.5 (14.1 / 31.3)
卸売	8.3	3.6	1.4	2.0	5.3	12.7	1.5 (3.8 / 29.1)
小売	7.1	7.6	6.9	6.5	2.0	1.9	2.1 (2.6 / 32.2)
サービス	15.2	13.1	19.4	17.3	12.9	10.2	10.5 (11.4 / 35.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは4.4となり、上昇感は弱まっている。大幅な需要不足により、鋼材や食材等が下落している。産業別にみると、卸売業で下落感が出てきているほか、他の業種では上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみると、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月10月の先行き見通しD I

()内右側は昨年11月の先行き見通しD I

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全産業	18.7	21.1	19.4	20.5	19.3	19.2	15.4 (16.2 / 12.0)
建設	36.5	37.4	25.4	31.7	30.4	27.4	28.8 (23.3 / 28.6)
製造	28.4	32.3	29.2	30.6	31.4	29.6	21.2 (24.8 / 17.2)
卸売	17.4	21.7	19.4	25.3	22.7	18.8	15.7 (17.3 / 12.1)
小売	9.0	10.5	13.3	13.3	10.7	13.2	10.3 (10.8 / 2.8)
サービス	8.3	11.0	12.3	8.8	8.4	10.6	6.7 (7.1 / 6.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、 19.2となりマイナス幅はほぼ横ばい状態。産業別にみると、建設、製造、卸売で過剰感が弱まり、小売、サービスで過剰感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、横ばいのサービスを除く、他の4業種で過剰感が強まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月10月の先行き見通しD I

()内右側は昨年11月の先行き見通しD I

【2009年11月の景気キーワード】

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。

- ・「休業や一時帰休などの労働時間の調整を行っている」(長岡・電気工事業)
- ・「ここ1年の受注が低位で推移しており、少しでも上向いた場合、雇用調整助成金の支給要件に該当しなくなる」(名古屋・鉄素形材製造業)
- ・「受注の減少が続き休業する事業所もある」(水戸・金属加工機械製造業)
- ・「給与・賞与は現状維持するが、退職者が出て補充を行わない」(草津・百貨店)
- ・「店舗の廃業が増加している」(福山・食堂・レストラン)

資金繰りの悪化

売上低迷や売掛金の回収サイトの長期化から、企業の資金繰りは厳しさを増し、年末の資金繰り不安を訴える声が多く寄せられた。また、中小企業向け融資や住宅ローンの返済を猶予する制度を盛り込んだ「中小企業金融円滑化法案」に関する声も寄せられている。

- ・「先行き見通しがつかず、今後も期待が持てない。年末にかけて資金繰りが厳しさを増す」(奥州・一般工事業)
- ・「売上見通しが悪く、借入をしても返済できるかどうか不安」(東京・建築工事業)
- ・「赤字に転落し、銀行からの融資が受けにくい状況。中小企業金融円滑化法案を利用したい」(弘前・農畜産水産物卸売業)
- ・「売上低迷による利益率の悪化に伴い資金繰りが悪化」(倉敷・百貨店)
- ・「資金繰りが厳しく、売上減少がいつまで続くのか不安」(中野・食堂・レストラン)

膨らむ先行き不安

年明け以降の仕事量の減少や所得・雇用情勢の悪化など、先行きに対する不安について訴える声が多く寄せられた。

- ・「政権交代による改革が、今後の企業経営や消費動向にどのような影響を与えるのか、期待より不安の方が大きい」(伊丹・一般工事業)
- ・「食品など消費者に直結する様々な商品でデフレ圧力が強まっている。価格競争にさらされ、経営環境は厳しさを増している」(横浜・他の食料品製造業)
- ・「年末商戦に期待しているが、賞与のカットなど消費の低迷による景気の二番底を懸念している」(三島・その他の小売業)
- ・「今年一番の落ち込みとなった。特に衣料品が悪く、前年比50%減の店舗もある。年末以降が非常に不安」(土浦・商店街)
- ・「売上低迷のまま推移しており、先行きも期待できない」(銚子・他の一般飲食店)

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
8月	雇用情勢の悪化	経済対策の効果	広がる低価格化
9月	雇用情勢のさらなる悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化
10月	雇用情勢の悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化
11月	雇用情勢の悪化	資金繰りの悪化	膨らむ先行き不安

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北、北陸信越、中国、四国の5ブロックでマイナス幅が拡大している。特に、北海道、四国では卸売業を中心に、東北、中国ではサービス業を中心に、北陸信越では小売業を中心にマイナス幅が拡大した。一方、関東、東海では建設業を中心に、近畿では小売業を中心に、九州では製造業を中心にマイナス幅が縮小した。

ブロック別の向こう3カ月（12月～2月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、東海、近畿、中国を除く、他の6地域でマイナス幅が拡大した。東海では小売業を中心に、近畿では卸売業を中心に、中国ではサービス業を中心にマイナス幅が縮小した。また、昨年同時期と比べて、すべての地域でマイナス幅が縮小している。ただ、現状、先行きとも、各業種のマイナス幅の縮小は、業況判断が「悪化」から「不変」に変更したことが主因で、実態は横ばい状態とみられる。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月～2月
全 国	64.2	63.6	59.6	61.4	60.6	60.0	50.9 (49.9 / 60.6)
北 海 道	56.4	50.6	52.3	60.8	53.4	58.1	41.9 (40.3 / 54.1)
東 北	66.9	65.9	56.7	62.9	51.9	54.5	55.8 (50.9 / 65.9)
北陸信越	60.1	69.0	66.7	63.2	57.3	64.2	57.0 (53.1 / 63.0)
関 東	66.7	63.8	56.5	60.0	62.2	61.1	51.0 (48.2 / 59.2)
東 海	70.1	67.2	62.1	67.1	73.9	65.9	42.1 (50.4 / 60.9)
近 畿	70.3	67.8	62.0	67.4	67.3	59.6	51.9 (56.4 / 62.1)
中 国	71.9	69.3	71.3	67.2	69.4	71.3	49.5 (56.1 / 61.8)
四 国	49.2	50.4	50.4	47.2	45.7	50.8	47.5 (35.9 / 59.7)
九 州	58.9	61.1	59.0	56.5	58.9	53.9	55.3 (54.8 / 59.7)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側（網かけ）は前月10月の先行き見通しD I

()内右側は昨年11月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・「今年度はすでに8割の公共工事の発注が終了しており、冬季に向けた仕事量の減少を懸念」(一般工事業) ・「<u>いか・鮭などの加工原料は、仕入れ価格が安値で推移し、利益が確保できる見通し</u>」(水産食料品製造業) ・「受注は回復基調だがまだまだ厳しい。新築住宅着工数も大幅に減少し、業界としては、新築からリフォーム事業に注力している。当社としても、増改築工事の営業強化を図っている」(不動産取引業)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「労働時間の調整や給与や賞与の減額を行っている」(一般工事業) ・「受注増が見込めるが、持続するか先行きは不安」(その他の製造業) ・「秋冬物の動きが鈍く、客単価も低い」(百貨店) ・「<u>地域振興キャンペーンに期待していたが、売上効果はほとんど見られなかった</u>」(旅館)
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>金属洋食器は業務用品、家庭向けギフト用品の受注が減少</u>」(金物類製造業) ・「不要不急の商品に対する顧客の目が厳しい」(商店街) ・「小ロット、短納期の受注が動き始めたという話が出ているが、実感に乏しい」(ソフトウェア業)
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>現在は前年より受注があるが、今後の見通しは極めて悪い</u>」(建築工事業) ・「建設機械、自動車関連等で上向いているが低水準」(一般産業用機械製造業) ・「工事量の減少により建築関係の商品が売れなくなった」(他の卸売業) ・「<u>安ければ売れるという状況ではない。買い控えが続いている</u>」(商店街)
東海	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>仕事量の減少に下げ止まりの動きが見られる</u>」(建築工事業) ・「自動車関連の売り上げは低調ながら回復傾向。他業種に関しては依然厳しい状況」(自動車・同附属製品製造業) ・「客数は微増だが、客単価は下がり続けている」(百貨店) ・「一部に持ち直しの動きが見られるが、先行き不安から企業・個人の消費が落ち込んでいる」(旅館)
近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・「依然業況は回復せず厳しい状況。従業員も過剰感がある」(金属加工機械製造業) ・「<u>淡路産たまねぎが高値で取引されたが、業界全体では厳しい状況</u>」(農畜産水産物卸売業) ・「<u>食料品が他店との競争で厳しいが、薄型テレビの売上は好調</u>」(百貨店)
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>仕事が出尽くし、この先の仕事のめどが立たない状況</u>」(一般工事業) ・「耐火物の生産量は少しずつ増加しているが、前年同期比75%の水準」(耐火物製造業) ・「地方の小売の回復には時間がかかりそうだ」(商店街) ・「<u>忘年会の予約が少なく先行き見通しが不安である</u>」(食堂・レストラン)
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>11月24日から小麦粉値下げとなるが、販売店から値下げを求められ、利益率減となる見込み</u>」(他の食料品製造業) ・「<u>テレビドラマの効果による観光客の増加に期待している</u>」(食堂・レストラン)
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>公共工事の減少が予想され、これから仕事が少なくなる心配がある</u>」(建築工事業) ・「<u>ここ1年は受注に伸びがなく、受注額も低下。営業力強化やデザイン開発に力を入れている</u>」(その他の製造業) ・「高額商品の売上が低調。客数も減少し、売上は低下の一途」(商店街) ・「<u>新型インフルエンザの影響で修学旅行キャンセルが相次ぐ</u>」(旅館)